

「モウシ火事やで（チョン〜）火事やそうにおますせ」（チョン〜）

火事と云ふのが寝てる息子の耳に這入つた、なんし飯より好きな火事やので寢床から飛んで起きて

「婆、火事は何處や火事は」

「兄、火事やといな、火事やといな」（ガンガラガン）

「火事は何處やと云ふね」

「兄その火事は」

「その火事は」

「火事ぢや」（ガンガラガン）

「火事は火事と云ふ事が有るか、火事は何處や早う云はんかい」

餘り喧ましよう云はれたのでお婆さん彷彿がきて、餘り遠い所を云ふたら又仕事に行くのに都合が悪いので近所が宜かろうと

「兄、その火事は隣裏や」

「なんや隣裏やと、それを早う云はんかい、隣裏なら友達梅の處へ行って遣らんならん、其處退け、

オ、ライシヨ……………」

跣足で飛んで行きました、お婆さんは後片付けて御飯拵へして御膳を出して待つて居ります、内はそ

れで宜しいが氣の毒なわ隣裏の梅はん同職業の大工さん、朝出仕事とみへて早うから上り口へ道具箱を投り出して、大工さんがお粥を食べると云ふ事は有ますまいが御飯の都合かお粥の釜を前へ置いて家内中寄つて食べて居ります。

「オイ嬢、早う辨當を入れて呉れ、今日は朝出で行かんならんね、遅ふなつたら手合が損る、洗濯は

俺が出てから仕たら宜いやないか、俺は氣が急いでるね、ハアプウお粥に仰山鹽を入れて辛うて喰

われへんがな、コラ喧嘩をせんと早う御膳を食べて寺屋へ行かんか、遅うなるやないか、コラまだ

喧嘩をしてる」

「ウワア……………兄やん私の香物を取りよるね」

「コラ香物を取つたりするなへ、鉢に仰山有るがな、汝兄やないか」

「私なんにも取れへんのに取つたや云ひよる、取らんのに取つたや云ひよるねやつたら取つたろ」

「又取りよるがなウワン……………」

「コラ其様な事をするな、モシお爺やん、チョツト見て遣つとくなアれ、香物で喧嘩をしてまんがな、お爺やんと云ふのに、貴郎は別に用事の無い身體や後で緩りと食べなアつたら宜しいがな、お爺やんと云ふのに、鼻を一遍かみなはれ、ブラツと下つてます、温い物を食べたら出るねがな、別にすゝり込まいでも宜ろしいがな、惜そうに何程でも後い湧いて出ますわいな、子供やあるまいし宜い